

令和元年度 札幌自由が丘学園三和高等学校 学校評価結果

和寒町教育特区学校審議会条例第2条第1項第4号により、三和高等学校について、令和元年度の学校運営全般の状況について同校から提出された資料やスクーリングの視察等を通して下記のとおり評価を行いましたので結果を町長に報告します。

評価項目	評価の視点	評価	所見
1 各教科の状況	教育課程の適切な運用と状況 教科指導の状況 進路指導の状況	優れている	本校の「自然体験科」、「北海道科」を通して、和寒町の生産活動に従事してきた町民の苦労や願いを理解させたことは、和寒町の今を知るだけにとどまることなく、生徒自身、自分を振り返る契機となり言動形成に大きく資した。また多様な体験は、自分を切り拓く進路選択や決定の判断材料となり、ひいては自分の基準づくりにつながったことは高く評価できる。また学習指導においては、義務教育段階の基礎・基本の「学び直し」や一貫性や適時性のある指導・支援に努めたことは、「好きなことだけ」に取り組むだけで高校が卒業ができるというイメージ払拭につながった。今後、進学や就職における多様な選択肢を活用した自らの進路計画のプログラム化を通して、キャリア指導に生かしていくことを期待したい。
2 生徒の状況	生徒指導等の状況 生徒の人格的発達の状況 安全管理の状況 要望等の状況	優れている	本校には、高校生活に幻滅したり何かの理由により退学した生徒が多く入学してくる。そういう生徒に、まず取り組んでいるのは居場所づくりである。小規模少数の落ち着いた環境で学びたい、人間的な関係を持ちたいという思いを大切にしながら、自立に向けた丁寧な生徒指導を進めていることは高く評価できる。また、学年を超えた自治活動や自主活動、和寒町での体験活動は、様々な人間関係を学び自分らしさの発揮に役立っている。そのため生徒は、次第に表情や態度に安堵の様子を浮かべ、落ち着いた雰囲気の中で学校生活を楽しむ様子を見せている。一方、スマホ依存の傾向を示す生徒に対する指導にも配慮しているが、今後、保護者との緊密な連絡・連携に立った指導・支援や医師との連絡・連携による適切な指導・支援により、一歩踏み込んだ生徒指導の展開を期待したい。
3 学校管理運営の状況	組織運営等の状況 教育目標と学校評価の状況 設置者と学校の取組状況	良い	今年度、学校評価の際に自己評価を実施した。このことによって、①自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さを評価したり②その結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たす道筋が確立され、学校・家庭・地域の連携協力が深まる第一歩となったことは高く評価できる。ただ現実には、学年を超えた生徒の状況理解の共有となると課題も多い。そのため学校行事への参加を呼びかける等の手立を講じているが、成果は今一歩である。また、札幌学習センターの老朽化に伴う移転については、様々な面で課題が多い。当面は、フリースクールとの同居によるメリット面を最大限に生かし、教育活動の充実に努めていくことを期待したい。
4 学校・家庭・地域の連携協力の状況	学校に関する情報公開の状況 学校と保護者・地域住民等との連携協力の状況	優れている	今年度の学校経営の重点として、「地方の教育資源を活用することによって多様な体験をする」を設定。即ち、和寒町との多様な連携は、豊富な教育資源を活用した体験を介してその達成をねらっている。このことは、北海道科のねらいや生徒一人ひとりの進路にも係わりと同時に、心の豊かさにも波及している点は大いに評価できる。また、開校10年の歩みは、「和寒町教育特区学校審議会」においても地元との関わりを深め、しっかりと根を生やした活動を展開しているとその評価も高い。今後は、ややもすると生徒と地域との関係が限定的な側面に陥りやすい点を改善し、学校の取り組みや生徒の現状について学校自らが和寒町全体に啓発するなどの工夫をし、さらに地域との幅広いつながりを期待したい。

5	学校設置による効果	学校が設置されたことによる経済効果	良い	「北海道科」での学習を基盤としたスクーリングにおいては、従前通り対話と模倣、体験を通して実のある教育活動として展開している点は大いに評価できる。同時に、経済効果としてもプラスに傾きながら、生徒の心に和寒が心に残っている点は、生徒の夢や希望の実現の糧となり、将来の支えとなっている。今後、面接指導や添削指導の充実とともに、保護者の和寒町の積極的なイベント参加や本校の和寒町における教育実践の積極的な発信を保護者と共に行ってくれることを期待したい。
6	町との連携協力の状況	町への現状報告及びセーフティネット対策の状況	良い	学校の運営状況や教育効果は、学校評価や審議会等を通して共有化されている。また、学校への支援体制も年々その充実ぶりをうかがうことができる。ただ、「構造特区」として地域の活性化は勿論のこと、地域産業を担う人材の育成は軽視することはできない。そのためにも、社会的な使命を多角的に把握し、教育の質を落とすことなく、多様なニーズを持った生徒の取り込みを常に図っていく必要がある。また、今後広がるであろう遠隔教育を視野に、インターネットやテレビ会議システムを活用して授業を受けられるよう体制を先導していける通信制高校の在り方を模索していくことも必要である。いずれにしても、さらなる教育内容の充実のために、連携して生徒の安全安心を担保するセーフティネットの整備は、継続して努力していくことを期待したい。

総合評価	良い
------	----

総合所見	三和高等学校評価基準に基づき総合的に評価を行った結果、通信制高等学校の置かれている厳しい現状の中であって、様々な原因・理由等から、必要な学力や人間関係能力や適切な自尊感情を身につけることができずに入学者に対して、教師が一丸となって誠意を持って心理面や生活リズムの安定を図る指導を行っている。その結果、中学校レベルの学力の回復、さらには高等学校の学習等に取り組み各々の進路実現まで高めている。また、かけがえのない一人の人間として幸福に生きる礎をしっかりと築き、社会に有用な人材として送り出していることは、学校教育目標の達成や人材育成という観点からも高く評価できる。加えて、和寒町のフィールドや人材を活用した「北海道科」の学習展開は、和寒町民との交流を活発化させ、ひいては経済効果を高めることにつながっている。今後は、入学定員増の適切な策を講じ、地道な取り組みを展開していくと同時に、情報公開の透明化を図り保護者・住民の願いや思いを実現すべく学校運営に努め、教育特区の高等学校としての使命を果たしていくことを期待する。また、「教育は人なり」の如く、多様性のある生徒に対応するためにも指導者の資質・能力の向上は避けられない。様々な場を通してその力量形成を図っていくことを願う。
------	---

評価については、「模範的」、「優れている」、「良い」、「おおむね満足」、「要改善」の基準で評価しています。